

千葉大学法政経学部 同窓会々報



【目次】

- 会長挨拶・・・p.2～4
- 前法政経学部長挨拶・・・p.5～6
- 法政経学部長挨拶・・・p.7～9
- 役員紹介・・・p.10
- 退職教員および着任教員の紹介・・・p.11
- 令和3年度総会について・・・p.12～13

掲載先

<https://www.chibalpe-alumni.net/contents/kaihou.html>

会長挨拶

同窓会の「再建・再生」にお力添えを

千葉大学法政経学部同窓会長

渡辺 雅隆

まもなく2年になろうとするコロナ禍のなかで2021年は年の瀬を迎えることになりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。理由は判然としませんが、秋以降急速にウイルスがおとなしくなり、街に人出が戻りつつあるのはうれしいことです。しかし、ここに来てまた変異株「オミクロン」の脅威が語られています。少しホッとしたり警戒したりの繰り返し。それが、しばらくの間の「日常」になるのかもしれませんが。

関係者のみなさまのご尽力で、11月末の日曜日に同窓会総会を開くことができました。ご多用のなかご出席いただいた会員のみなさま、本当にありがとうございます。「密」を避けてリアルとオンラインのハイブリッドで、という初の試みでしたが、オンラインでご参加いただいたみなさまに別の「会議室」をご案内してしまい、大変、ご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてあらためてお詫び申し上げます。言い訳にはなりませんが、何もしなければ失敗することはありません。何かに挑戦しようとするから失敗もある。再建途上にある同窓会のこれからに期待してご寛恕いただければ幸いです。

コロナウイルスは私たちの暮らしを大きく変えました。もう、元に戻ることはないと言われていきます。社会や暮らしはさらに変わっていくのでしょうか。この間、家族の絆を思い、医療関係者の献身に感謝しつつ、「自粛」の強要や「自宅療養」という名の医療放棄を余儀なくされている理不尽に不安を感じる人は少なくありませんでした。文化や芸術を「不要不急」と断じて中止を迫る行政の対応や、政治の危機対応能力の欠如、メディアの対応の甘さに憤慨した方もいらっしゃるでしょう。その一つひとつを「現在地」として直視することから、より良い社会への変化は始まるのだと思います。

すべての仕事にあてはまるわけではありませんが、コロナ禍のなかで働き方改革は確実に進みました。関係者の知恵と工夫でオンラインのコンサートや展覧会が数多く企画され、暮らしを豊かにするものは「経済」だけではない、という強いメッセージも共有されました。リアルの充実感は格別です。しかし、オンラインは国内外のどこからでも参加可能であり、アーカイブ化によって時間を越えてその魅力を楽しむメリットもあります。文化や芸術の味わい方が多様化したと言えるのかもしれません。その延長上で考えれば、年齢はもとより、住む場所も経験も大きく違う大学の同窓会も、オンラインを駆使することによって、全国各地、国内外を結び、OB、OGの出会いの場や情報交換の機会を増やしたり、現役の大学生との接点をつくったりといったことも可能になるでしょう。新年度に向けて、理事のみなさんとともに魅力的な「仕掛け」を考えていきます。ぜひ、会員のみなさまのお知恵をお貸しください。

パンデミックは社会のありように大きな影響を与え、歴史そのものを変えてきたと言われています。振り返れば、14世紀に欧州で大流行したペストによって人口が大きく減少し、教会の権威は失われました。その結果、封建制度の崩壊が加速し、ルネサンスにもつながったという説（もちろんそれだけが原因ではありませんが）は、コロナ禍のなかで何度も目にしました。『感染症と文明』などの著書がある山本太郎・長崎大学熱帯医学研究所教授によれば、甚大な人的被害は労働者の賃金上昇をもたらし、荘園の崩壊につながり、さらには人材登用も進んだことでルネサンスが開花した——ということのようです。スペイン風邪の大流行は第一次世界大戦の終戦を早めました。江戸時代の終わりに大流行したコレラでは、100万人都市の江戸で約3万人が死亡したといわれますが、尊皇攘夷（じょうい）派はその原因を「開国のせいだ」とあおり、明治維新を経て港に検疫所ができたという指摘もありました。

今回の新型コロナウイルスは社会にどんな変化をもたらすのか。その行く末を知るにはもう少し時間が必要かも知れません。ただ、コロナ禍のなかで社会のIT化は一気に進みました。ITは手段であって目的ではありませんから、重要なのは「ITを駆使してどんな社会をつくるのか」ということでしょう。

山本教授は「人類が自然の一部である限り、感染症と共生し、付き合っていかなるを得ない」と言い、環境ジャーナリストの石弘之さんも、「人が動く以上、病気も動く。ウイルスと共生する覚悟を」と説きます。「ウイルスに打ち勝つ」ことはできません。しかし、正しい情報を共有し、専門家の知見、多様な立場の声を聞きながらその時点での「最善の策」をとり続けることはできます。

グローバル化し、ヒト、モノ、カネが猛スピードで動く社会、より複雑化する社会では、一筋縄ではいかない課題が次々に現れます。その課題に気づき、真摯に向き合える人材の必要性は、さらに高まっていくのでしょうか。法、政、経の専門性を柱に、それぞれを横断的に学ぶことで社会諸科学を俯瞰する広い視野を持つ人材を育てる――千葉大学法政経学部の大きな目標です。それはコロナ後の新しい社会を担う「人」を育てることでもあります。私たちの同窓会も、みなさまとともに、そんな「人づくり」に何がしかの貢献ができればと夢想着しています。今後ともよろしく願います。

みなさま、よいお年をお迎えください。

前法政経学部長挨拶

法政経学部同窓会の発展を祈念して

千葉大学前法政経学部長

金原 恭子

2019年4月から2年間、法政経学部の学部長という重責を担うことになりました。それ以前は法科大学院専任ということで、法学部門以外の社会科学系の先生方とそれほど交流があったわけではないので、学部長としての仕事はまず先生方のお顔とお名前を一致させるところから始まりました。

そのような具合でしたから、学部長に就任後まもなく本部の同窓会関係部署から、「法政経学部同窓会とは連絡が全く取れない。学部長として何とかして頂けないか。」というお話があったときには、一体どういうことになっているのか、見当もつかない状態でした。そこでまずは事実を調べなくてはいけないと思い、事情を御存知であろうと思われた法政経学部所属の先生方にお話を伺いました。そこでわかったことは、「学部は同窓会とは縁を切った。」という俄かには信じ難い事態でした。こうして私は学部長として、学部と同窓会の復縁という難題に立ち向かうことになったのでした。

当時の関係者にも助けて頂きながら、一歩ずつ復縁作業を進めていきました。同窓会には会員が納めた会費も相当程度あるわけで、それをきちんと維持管理することはとても大事なことですし、それと同時に、同窓会の活動を担う人的組織も安定的に存在している必要があります。そこで、それまで同窓会に理事等として関わってこられた卒業生の方々（その中の御一人が吉永英明前同窓会会長）にお越し頂き、今後のことを御相談しました。その結果、その方達は同窓会役員を退かれ、同窓会費は新規の銀行口座に移管するという解決方法で合意を見るに至りました。

同窓会費の移管・保全是予定通り進みましたので、次は将来の同窓会理事のリクルートという問題でした。結局、自分が直接・間接に存じ上げている方に事情を説明してお引き受け頂くということで、この問題を解決しました。その際、多様性に特に留意し、卒業学科、年齢、性別、職業等の観点から、幅広く卒業生を代表できるような方達の御協力を仰ぐことに致しました。その頃には新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、同窓会再建準備作業に支障をきたすのではないかと心配もしましたが、おかげさまでお声がけした同窓生の皆様から御快諾を頂き、晴れて2021年5月15日、対面式にて初の同窓会再建準備委員会を西千葉において開催することができました。

翌6月には、徳久剛史前学長のお口添えもあり、前朝日新聞代表取締役社長の渡辺雅隆様から同窓会会長就任への御快諾を頂戴することができました。その少し前の4月1日に、本学の卒業生である佐藤栄作先生が法政経学部長に就任されていました。同窓会再建も当然ながら学部長の引継ぎの中でお願いさせて頂き、この佐藤学部長の御尽力で11月28日、再建された法政経学部同窓会の総会開催に至った次第です。同窓会再建に御協力下さったすべての方に深謝申し上げます。今後の法政経学部同窓会の発展を祈念しております。

法政経学部長挨拶

法政経学部同窓会の再建に寄せて

千葉大学法政経学部長

佐藤 栄作

法政経学部同窓会会員の皆様、2021年4月より法政経学部長を務めております佐藤栄作と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。実は私自身も1988年3月に当時の法経学部を卒業した同窓生の一人であり、ご縁があって千葉大学法政経学部の教員となり、今年からは同窓会理事にも名前を連ね、同窓会の再建に携わっております。このように私個人は法政経学部と多面的かつ深いご縁をいただいておりますけれども、ここでは、法政経学部同窓会の再建に当り、法政経学部長の立場から、同窓会会員の皆様に謹んでお祝いを申し上げますとともに、法政経学部在学学生、法政経学部ならびに千葉大学に対して様々なご支援を頂戴しておりますことに改めて深く感謝を申し上げます。

さて、法政経学部は学部改組により2014年度に設置されました。法政経学部それ自体としてはまだ歴史の浅い学部ですが、千葉大学の沿革に記されておりますように、新制国立総合大学として1949年に千葉大学が設立された当初の学芸学部から文理学部、人文学部、法経学部へとその良き歴史が引き継がれ、社会や時代の要請に応えるべく発展的な学部改組が行われ、現在の法政経学部に至っております。このような経緯から学部名を冠する同窓会の名称も変遷し、現在は法政経学部同窓会と称していただいております。

とはいえ法政経学部の前身学部を卒業された同窓会会員の皆様にとっては、法政経学部という名称は、耳慣れない部分もあろうかと存じますので、この機会に改めて、簡単に法政経学部について、紹介を申し上げます。法政経学部には、法学コース、経済学コース、経営・会計系コース、政治学・政策学コースの4つのコースが設置されております。入学した学生は2年次から、いずれかのコースに所属し、その専門分野を深く学んでいくこととなります。それに先立ち、1年次生は全員、基礎ゼミナールに所属し、大学で能動的に学ぶ手法を身につけるとともに、各コースの入門基礎科目を幅広く受講し、社会諸科学の基礎を学びます。

そうした準備を経て、1年次末には自分自身が2年次から所属し学ぶことを希望するコースを選ぶこととなります。さらにこれらのコースに加えて、1年次から専門教育を実施して3年間での卒業を可能とする経済学特進プログラム、および最短5年間で司法試験受験資格を取得することが可能な法曹コース・プログラムも設けられています。このように法政経学部は、学部の持つユニークな特徴を最大限に生かし、社会科学諸分野に関わる広い見識を身に着け、専攻する分野の専門性を高めるための教育カリキュラムの提供を通じて、有意な人材を社会に輩出することを目指した国内でも稀有の社会科学系複合学部へと発展してきております。

もう1つ同窓会会員の皆様に、法政経学部に進学する学生の状況についてもお伝えしておきたいと存じます。2019年末から瞬く間に拡大した新型コロナウイルス感染症は、文字通り世界的規模で人類社会に大きな影響を及ぼし、厳しい制約の中での社会生活を強いるとともに、その対応の在り方を通じて、社会的分断や格差といった問題をより際立たせているように見えます。同窓会会員の皆様も少なからずこうした影響を受けておられることと拝察いたします。法政経学部の在学生についてもその影響は大きなものでした。千葉大学では人命を最優先とする感染防止対策のもと、2020年は入構制限が行われ、在学生は大学構内を自由に出入りすることができず、教職員も可能な限りの在宅勤務の実施となり、すべての講義等がメディア授業に移行することを余儀なくされました。こうした急激な授業形態や学生生活の変化に、在学生の皆さんは戸惑いと苦労を重ねながらもなんとか対応していただけたものと思います。その後、感染対策を徹底することを前提としつつ、一部のゼミナールや演習科目を中心に対面授業も再開され、2021年11月現在はメディア授業や対面授業といった授業形態を併用するという状況になってきております。現在は入構規制も解除されていますので、西千葉キャンパス内で多くの学生の皆さんの姿を目にすることができるようになりました。このように一定の制約はあるものの、西千葉キャンパスにおける学生の皆さんの活動が、新型コロナウイルス感染症に適応する形で再開していることは誠に喜ばしいことであります。就職活動につきましても、その形態がオンライン中心になるといった大きな変化はありましたものの、内定者数の大幅な落ち込みということも無く推移しており安堵しております。また学生の生活困窮問題も心配されるところでありますので、千葉大学では学生相談室等を通じてそうした学生の生活全般の問題への支援が行われているということも付記いたします。

ここまで法政経学部ならびに在学生の現状について簡単にご紹介申し上げましたが、社会の要請や変化に応じて法政経学部もさらに進化していく必要があると認識しております。法政経学部ならびにその前身学部に所属した同窓生の皆様の培ってこられた良き学問的伝統を引き継ぎつつ、法政経学部はさらなる発展を目指して参りますので、同窓生の皆様におかれましては、今後ともご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。最後に、法政経学部同窓会ならびに同窓会会員の皆様の益々のご発展を祈念いたしまして学部長の挨拶といたします。

役員紹介

会長	渡辺 雅隆	人文学部	1982年卒
副会長・理事	吉田 雅一	人文学部	1979年卒
理事・顧問	佐藤 栄作	法学科	1988年卒
理事	尾形 健	法学科	1996年卒
理事	櫻田 寛子	経済学科	1998年卒
理事	南 友美子	法学科	2006年卒
理事	永見 慶子	法学科	2007年卒
理事	石見 元太	法学科	2013年卒
理事	橋本 祥一郎	法政経学科	2020年卒
監事	大久保 壽一	人文学部	1979年卒
監事	大勝 健司	経済学科	2007年卒
顧問	金原 恭子	(前法政経学部長)	

退職教員および着任教員の紹介

- 令和3年3月31日で退職された先生

中原 秀登 教授 （経営・会計系コース）

大塚 成男 教授 （経営・会計系コース）

森谷 和馬 特任教授 （法学コース）

- 令和3年4月から11月に着任された先生

池亀 尚之 准教授 （法学コース）

令和3年度総会について

「総会の様子 — 対面開催会場の総会の様子、オンライン開催の挑戦とトラブル、その後」

2021年11月28日(日)に法政経学部同窓会再建後初めての同窓会総会が開催されました。当日の様子を、会報を通じて同窓会会員の皆様に紹介申し上げます。

今回の同窓会総会は、コロナ禍の感染対策と遠方からのご参加者の利便性を考慮して、対面とTeamsを利用したオンライン会議の併用で開催することを計画し、準備を進めて参りました。総会前日時点で対面参加13人、オンライン参加53人のお申し込みをいただき総会当日を迎えることとなりました。

そして11月28日14時に総会は予定通り開会し、同窓会再建を記念して渡邊同窓会会長にご挨拶をいただきました。引き続いて、同窓会再建に当り同窓会設置準備委員会を設置し、同窓会再建に多大なご尽力をなされた前法政経学部長・同窓会顧問の金原先生にご挨拶をいただきました。その後、渡邊同窓会会長の進行により審議事項に関する審議が行われました。総会で審議事項として提案されました議題は、同窓会会則の改定、同窓会役員の選任、令和2年度決算、令和3年度予算、同窓会会報についての5件であり、すべての議題について対面参加者のご承認をいただくことができました。その後、同窓会ウェブサイトが新設されたこと、および同窓会会員名簿整備のためにウェブサイトで会員情報登録をお願いしていくことについての報告がなされ、最後に、吉田同窓会副会長のご挨拶により総会は閉会となりました。

対面開催会場では、総会が上記のような流れで進められ閉会となりましたが、残念ながら同時に配信される予定のオンライン会議の方が、手違いにより開催することができなくなっておりました。このような状況となりました原因は、オンライン参加者に事前にメール送信したオンライン会議用URLが、当初設定したものから文字列が変換されてしまったことによるものでした。この状況に気付かずに当日を迎え、結果としてオンライン参加予定の皆様にご参加いただくことができないという事態となってしまいました。オンライン会議によるご参加を希望されていた多くの同窓生の皆様にはご迷惑をお掛けすることとなりましたこと、改めて深くお詫び申し上げます。

上記のようにオンライン参加希望の皆様に、総会の審議事項についてご意見をお伺いする機会を設けることができませんでしたので、緊急の対応として、総会の審議事項に関する資料を11月29日に該当する方々にメールにて配信し、12月6日までの1週間の期間でご意見をお伺いいたしました。その結果、特にご異議はございませんでしたので、オンライン参加希望の皆様にも総会の5つの議題についてご承認をいただくことができました。

以上の結果、11月28日の総会における審議事項のすべてを承認いただくことができましたので、これを以て再建後の新たな同窓会会則に基づき、同窓会理事会が正式に発足し、同窓会の活動が開始されることとなりましたこと、改めて報告申し上げます。

同窓会再建に当り、理事会メンバー全員が同窓会運営に初めて挑戦するという文字通りの一からの出発となります。総会ではオンライン会議併用というチャレンジが失敗となってしまいましたが、これに委縮することなく、同窓会に役立つことであれば積極的にチャレンジして参りたく存じますので、同窓会会員の皆様には引き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。

会報編集委員（広報担当理事）：

渡辺雅隆、吉田雅一、佐藤栄作、尾形健、櫻田寛子、
南友美子、石見元太、橋本祥一郎

発行 千葉大学法政経学部同窓会

〒263－8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学法政経学部内

E-mail：chiba.houseikei.dousoukai@gmail.com